

## 平成 30 年度 第 4 回わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成 31 年 1 月 24 日 (木) 午後 5 時 00 分から午後 6 時 10 分まで
- 2 場 所 深沢コミュニティセンター
- 3 出席者 深沢区民 26 名  
市長、随員職員 2 名
- 4 市長講話

今日は懇談会ということで、このような席を設けていただきありがとうございます。  
また、深沢区の皆さまには、いつもお世話になりお支えいただき、ありがとうございます。  
います。

新しい年を迎えまして、ちょうど今、新年度の予算査定をしているところであります。2018年には、庁舎が新しくなり庁内体制も整って、横の連携も深まってきて、開放的な空間のなかで仕事をさせていただいています。これも皆様方のご理解をいただいて、このようになっているということで深く御礼を申し上げます。また、一年間、いろんな面でお世話になったことに対しましても、この場をお借りして御礼を申し上げます。明けて2019年の今年は激動の年になりそうで、消費税といった経済面では、いろんな変動が来るかなと思っています。

ちなみに、中野市の財政上のお話を申しあげると、大体220～230億円の一般会計で、そのうち税収につきましては、約60億円になります。いずれにしましても、自主財源の歳入確保は出来ているということです。

ご案内のとおり、今日もご意見やご要望があるかもしれませんが、学校の統廃合問題や2018年は下水道会計を企業会計に見直しまして、資産の洗い出し、財政の繰り出しなどいろいろな資金需要が多発しまして、これから本腰を入れて、気合いを入れていかないといけません。また、将来の中野市に向かってのやるべきことが出来るような環境をソフトランディングしていかなければいけないという難しい局面に入ってきているかなと感じています。それに在<sup>ま</sup>しましても、これまでは、行政に何かをお願いして行政が何かをやるという時代は過ぎてきまして、皆さんが何かを考えたことに対してどうするか、というようなことにどんどん取り組んでいってもらいたいと思います。

ちなみに街なかのことをお話ししますと、大型店がどんどん進出して、中野市としてみれば、固定資産税が上がるわけですが、商店自体の街なか空洞化している

問題はどうかということですが、これはやっぱり行政が出て行って街を整備、いわゆるインフラの整備をしてもそこで<sup>なりわい</sup>生業を立てようと思う人がいなければ意味はなく、要は人が大事ということですね。こうした「人」をどう育てるかということが問題で、これはどんなところにも及んでいると思っています。

ちなみに、いろんなところでお話しをさせていただいていますが、人口の話ですが、東京オリンピック後の2022年ですが、人口推計によると、全国で1年間に50万が減っていきます。それで2023年には60万人で、その減少人数はどんどん増えていきます。最終的に、2031年になると年間80万人ずつ日本の人口が減るということです。そんな中で、減らさない努力をしなければいけません。政府がやっと本腰を入れて、少子化対策が始まったところです。ちなみに、幼児教育無償化の話が急に内閣の方から発表されて、今年の10月から完全無償化がスタートするわけですが、急に上から降りてきた話で行政も対応が出来なくて、一昨日も市長会のなかで話が出たところがあります。とにかく、どんどんとやってきているのですが、実はこれも過去のツケが回ってきていると私は思っています。ちゃんと長期的な展望をもってやっていれば、このような事態にはならなかったはずだと思っています。いつでも先を見てモノを考えていくということが重要で、1989年、今から30年前の首相のとき、日本の出生率が1.57人でした。これは、戦後最低で静かなる危機が来るということで、当時、政府のなかで研究会のようなものを立ち上げたんです。そこから歴代の内閣を経て、どんどん問題の先送りがされて、当時、生まれた子供が現在30歳ですが、これは大変なことだということで動き出したという風に理解してもらえればと思います。5年ほど前、「地方創生」ということで政府が打ち出して、内閣主導で動いている事業があるんですけども、基本的な目的の柱が2本ありまして、そのうちのひとつが「人口減少に対する地方の活性化」でありまして、もうひとつが「一極集中」であります。なぜかと言いますと、危機管理上の問題もありますが、出生率を見たときに、東京へ出た女性の出

生率は1.2人となっています。東京に女性が進出していくと、一人あたり1.2人しか生まない状況にあるので、東京へ若い女性を出してはいけないと思っています。若い女性が田舎で楽しいなと思えるそういう<sup>なりわい</sup>生業を立てるようなまちづくりをしていかなければいけませんし、企業や事業体を地方に分散して、リスク管理をしていくような、そういう政策をどんどん進めるべきだということをいろいろな会合で、政府の人には話をしています。

そうは言っても、政府に頼ることばかりでなく、地方の企業のニーズを掘り起こして、小さなビジネスでも中野市に入り込んで来てもらって、事業を起してもらおうということをやっていかなければいけないと思っています。当然のことながら、農業関係もそうですけど、農業のブランド化を図って農業所得を上げるということは、真剣になってやらなければいけませんし、これは波及効果が高いということで、政策のありようを作って、現在きているところです。

いずれにしても、ここが転換点かなと思っていますし、さらにギアチェンジをして、攻めるところは攻めていかないと人口減少に対して、「人は減っても明るく楽しく、安心して暮らせる」ようなそういう土地にしていかなければいけません。

現在、日本の人口は1億2千万人からどんどん減ってきていますが、50年ほど前の東京オリンピックの頃の人口は、およそ7千万人でした。それで高度成長をやってきたと思いますが、人口が1億人を切るからどうのこうのということではなくて、もう少しやりがいのある時代がやってくるという風に考えてもいいし、農業関係では、どんどんAIやIoTが入ってきていますが、これも積極的に取り込んでいき、そんなモデル地区にしたいと思っていますし、効率化をあげて中野市の先端農業の展開をしていきたいと思っています。

さて、今日は皆様方から事前にいただいている質問が5件ありますのでお答えして

いきたいと思えます。

一点目の「北部開発及び整備について（高社山開発を含む）」ということですが、皆さん、ご案内のとおり、高社山を世界に発信する会という一部の団体を中心になって、高社山を中心としたこのエリアを外に売り出そうということで、やっている方がいらっしやいます。そのなかに東京にいる中野市出身の方もいて、映像のプロや仕掛けのプロが作ったビデオがありまして、これを見ると、この地域がいかに住みやすく、いかに暮らしやすいかということが分かります。高社山麓もドローンを使った映像を使っています、それを世界に発信して、住んでもらおうという企画をしています。こういった企画に対しては、どんどん支援していきたいですし、この山麓の持っているポテンシャルが高いものは、どんどん売り出していきたいと思えます。

ちなみに、ある<sup>さんたい</sup>山体の周りを一周できる山というのは、全国でもそんなにありません。山ノ内町、木島平村の方も入ってきますし、あっちは米でこっちは果樹ということで、いろいろなところから「皆さんここで仕事をしませんか、農業をしませんか」というような掛け声をしていきたいと思っています。そのようなアイデアで、そういった人たちの活動を支える中で、これを推進していきたいと思っています。

ちなみに、飯山駅が出来まして、考えていただきたいのですが、私は西町に住んでいますので長野市に出るときは、長野電鉄に乗って910円で50分ほどかかります。飯山線に乗ると、立ヶ花駅からは320円で長野駅に行けてしまいますし、時間距離で考えれば街中よりもあっちの方が近いんですね。もっと言うと、飯山駅からは15分かからないで長野駅に着いてしまいます。こういう時間距離を考えたら、この飯山駅を中野市の駅だと考えて使っていないといけませんし、実はそういうところに注目して、いろんな人たちが中野市の魅力を語るようになってきています。ちなみに、市役所から飯山駅までは車で20分ほどで行けてしまいますし、今後整備が進んで15分圏内になってしまえば、もうこれは自分たちの駅だと考えて活用するようになると思えます。

そこから地の利を考えて、どこに人が住んでいるかということを考えれば、中野市に人がやってくるということです。中野市で宅地造成をすれば、すぐに売れると私は思っています、実際にすぐに売れてしまいます。空き家については、区長の皆さんに調査をしてもらったら、400棟弱という数でした。これは、今は住んでいないけどたまに帰ってくるという場合は、空き家ではないということになっているので、定義によって数は変わってくると思いますが、人が関わっていない空き家の数は400棟弱ということになります。

私は前から、北部地区はこれから人口が増えると言っていますが、新幹線の駅が近いというのが一番ですが、飯山市との橋の架け替えなども含めて、これから縦横無尽に行きき出来る場所になります。そうした劇的な変化が今起きているんですね。そういった意味で、高社山の山麓一帯は、活性化という意味ではこれからの希望だと思っています。ちなみに高社山に登る人をカウントはしていないのですが、トレッキングブームで相当数の人が登っていると思います。SEA TO SUMMITをここ2年程、開催しましたが、国土交通省では「かわまちづくり」という千曲川を利用したまちづくりをやろうということでやっているんですけども、飯山市、中野市、小布施町、須坂市、長野市の千曲川水系で自転車に乗ったり、高社山に登ったり大きなエリアを作ろうということです。もうすぐ笠倉と壁田を結ぶ橋が出来るので、向こう側の橋げたの下が空くので、カヌーポートを作ろうということで考えていまして、そうすれば人がどんどん寄ってくるのではないかと思います。いずれにしても、観光戦略の目玉に高社山をあげたのは非常に良かったなと思っています、最終的には、どこからでもアプローチできますので、観光と言う面では、果樹とこのへんを回遊できるような、そんな環境を作っていきたいなと思っています。こういったこと以外にも皆さまのなかで、アイデアがあれば教えていただきたいと思います。今、自然を壊さずにとということで環境整備をやるのですが、森林開発というか自然環境開発について、今年から始

まる森林譲与税は全国民から1,000円ずつ集めるんです。森林整備にその資金を充てようということで、5年後から税金を取るんですけども、政府は必要な各自治体にお金を渡しましょうということでスタートします。これを使うと、災害があったときなど人工林の針葉樹がいっぱいあると、この森林整備に使っていくということや、もう一つは、森林を利用した施設の建設にも使えていくということです。これは、人口割で3割を各自治体に交付されるということで、東京都の自治体だと10万人規模で森林がない都市があり、何かに使わないといけません。そういったときにそこに行って、「皆さんの自然教育に使いませんか。」と言って、その人たちを呼んできて、森林整備といった作業をしてもらうようなやり方もあって、自治体交流の財源になります。こういうことも、自治体間連携を図って、こちらの方から提案をしていくということを考えています。

続いて、県道の整備についてですが、県道なので何とも言えませんが、道路舗装については、道路が汚いとその街のイメージがダウンしてしまうので、一生懸命、建設水道部でやらせていただいていますので、お気づきの点がありましたら、教えてください。

それから、水の利用についてですが、流れている水の裏側には権利関係など難しい問題もありますが、私が市長になってから横浜市で水力発電のモーターをつくっている会社があって中野市で使えないかという話をいただいたのですが、たしかに扇状地で川が多くあるので、いろいろ付ければ、電力を作ることができるかもしれないと思ったんですけども、いわゆる権利関係があるので一気には広がらないですよというお話をしました。条件さえ整ってやってみようということになれば、いろいろな会社があるので、出来るような気がします。

続いて、十三崖の整備につきましては、ちょうど今進めていまして、2月に完了予定となっています。チョウゲンボウの営巣回復のためということで、夜間瀬川は、県

の管理であり、県の土木の方にも力を入れて進めてもらっています。また、お気づきの点があれば、言っていただければ県にも伝えていきたいと思えます。

最後に、北部4校の統廃合の件ですが、これはいろいろな経過があつて先ほど申し上げました「人口減少」というなかで児童の教育環境をどうするかということもありまして、統合に向けて検討委員会や教育委員会を含めて、進めさせていただいています。おかげさまをもちまして、少しずつですが進んできたわけですが、今日も越区の保護者の皆様から要望をいただきました。いろんな意味で、横田副市長にも企画をまとめてもらったりして進めているんですけども、一回決めたらそれで終わるようなものではありません。お子さんたちの安心・安全の確保が一番ですし、今は6年生がいますけども、来年になったら上級生がいなくなるというような状況もありますし、小学生が何人ということではなく、その構成を見ていかないといけません。構成は毎年変わるものですし、そういうところも視野に入れて、きめ細かく、運行については対応していきたいと考えています。ある年はこうだけど、次の年はこうだというような柔軟な発想であってもいいんじゃないかと、私自身思っています。この辺については、検討委員会等のなかで一定の案が出てきて、説明会を行う段階だと聞いていますので、そういった席でもどんだんご意見を出していただければと思います。関係者の皆様の最大の公約数と言いますか、これだろうということに納得いただけるようなスタートをしていければと思います。また、各地区の皆さんがいいなと思えるような、深沢区や越区といった境界を除いて、寛容の精神で路線を考えていくことがいいかなと思っています。その年々に、どこにどういうお子さんがいるかということを押さえてやっていくことも可能かなと思っています。

高社小学校につきましては、いろんな意味で歩道の整備や環境整備をしていかないといけません。一気には出来ませんので、少しずつ進めていきたいと思えます。また、高社小学校は中野市のITなどのモデル校にしようと思つていまして、なぜかと言



いますと、学校が良ければ、そこに人がやってきます。というよりも入って来ています。これから人口がこっちにシフトしてくるような、そういった施策を展開していきたいと思います。

ここまでいろいろなお話をさせていただきましたが、質問等あればお答えしますので、よろしくをお願いします。

#### 《質疑応答・要望①》

新幹線の通勤など、飯山駅をもっと利用しなければ本数が減ってしまうと思うので、本数を増やすような利用の仕方何かあるか。

また、政府の方では、市町村の合併の話は出ているのか教えて欲しい。

(市長)

市町村の合併については、合併ということではなく総務省では「圏域」ということを言っています。現在、北信広域連合というようなものがありますが、ここでいう「圏域」はもっと緩い関係で、例えば、長野市や小布施町と共同で何かを進めていいんじゃないかということです。活用出来るところは、事業体だけでなく連携できるところはやっていきたいと思います。

また、飯山駅については、中野市のパンフレットに飯山駅を大きくして「15分」というような大きな字で広告宣伝をすることが必要だと思っています。二次交通については、バスなどもありますし、とにかくやってみようということがこれから重要になってくるんじゃないかと思えますし、試してみることが大事だと思えます。

#### 《質疑応答・要望②》

中野市の待機児童の問題が話題になっているが、せっかく施設があるのに園児が入れないのは残念である。ぜひ、0～1歳児の人も入れるようお願いをしたい。

(市長)

今回のものについては、保留通知であり、待機児童ではありません。現在、対策を考えていますし、保育士さんとの面談も実施しています。非常勤職員の確保について、東京などで働いていて戻ってきている有資格者がいるそうなので、こういった人たちに向けて考えているものとして、インターンシップで少し働いてもらって環境を見てもらうのいいかなと思っています。いずれにしても、ここで子育てができ、子どもが健やかに育てられる環境がなければ、若い人は住みつかないので、それは第一に考えています。また、何かあればお教えください。

《質疑応答・要望③》

高社小学校への通学方法について、深沢区から現在の平岡小学校へは、バスよりも歩く方が良いと思っているのですが、道路の歩道整備はどのように考えているか。

(市長)

歩道整備については、調査をしてどういった整備が出来るかやっつけていかなければいけないと思っています。詳しくは、今資料がないのでお答えできませんが、その辺も含めて安全な通学確保に努めていきたいと思っています。

《質疑応答・要望④》

数人しか住んでいないような区の人たちをまちなかに移住してもらうような対策は考えているのか。

(市長)

それについては、住民の方の考えもありますが、豊田の方では過去に集落全部が移住したこともあるそうです。例えば、社会資本整備でそこを維持していかなければな

らないという必要になれば、ご相談するような事態になると思いますが、そうならないように何かしら人が入り込めるようにするという考え方もあると思います。